



# Hostelling Magazine

巻頭インタビュー

トラウデン 直美

ファッションも旅も、  
急がないことで  
サステイナブルに近づける



この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。

# MY STANDARD LUNCH PACK



# FRUITY LUNCH PACK



※写真はイメージです。

それは、フルーティなジャム。  
大人も愉しめる、  
3つの味で好評発売中。

ぼくらのミカタ。

# ランチパック



# 水と生きる

未来、ていきなりやってくるんじゃない。  
いつも、今が入り口なんだ。



100年先を考えて初めて、  
今すべきことが見えてくる。  
私たちサントリーが、「水」の仕事をしなが  
ら気づいたことでした。

水は、自然からいただく恵みです。

地球上の水蒸気が雨や雪になって山に降り、  
地下深くまでの長い旅をして、  
やっと人々の元に届く。

しかも、要する時間は、20年をゆうに超えます。

私たちのものづくりの原点は、  
この先も良質な水です。

たとしたら、私たちに大事なのは、

100年先をイメージする力。

そして、今ここにある山や森を  
もっと深く知り、守り、育てることだと、  
改めて思います。

ずっとずっと、

水と生きていきますように。

水と生きる **SUNTORY**

© Fujiko-Pro

水と生きる@リアル

検索



HOSTELLING INTERNATIONAL

# Vision

Principle and Philosophy

## *Inclusivity*

世界を超えて

## *Learning and Understanding*

考えよう

## *Sustainability*

僕らと子ども達の未来のことを

日本ユースホステル協会はユースホステルのビジョンに基づき、日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

※本紙の情報は2020年12月20日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。  
 発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会  
 編集・発行人 寺島 真  
 TEL. (03) 5738-0546  
 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1  
 国立オリンピック記念青少年総合センター内  
 ※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。  
 制作・印刷製本/サンメッセ株式会社

## Line up

インタビュー ..... P02

トラウデン 直美

ファッションも旅も、  
急がないことでサステナブルに近づける

Youth Hostel Pick up ..... P08

本州最西端の海峡都市、  
下関の歴史、文化、食。  
すべてを堪能できる海峡の宿-

海峡の風 下関市火の山ユースホステル

Hostelling Magazine × 地球の歩き方... P12

まるで映画の世界に飛び込んだみたい!  
世界のリアルSF、近未来都市

■奇抜なビルが点在する  
世界に名だたる近未来都市

■近代建築と中世の町並み  
ふたつの顔をもつ独特の景観

■天才建築家が設計した  
ゼロから生まれた未来都市

■1年に1度開催される  
世界遺産を舞台にした光のショー

■ハドソン・リバー沿いにたたずむ  
松ぼっくりみたい不思議な建物

教えて! 旅GIRL ..... P17

松島むうの晴れときどき旅びより..... P18

Sustainable Tourism ..... P20

全国ユースホステルMAP..... P22

巻頭インタビュー

ファッションも旅も、  
急がないことで  
サステイナブルに近づける

モデル・タレント・キャスター

## トラウデン 直美

「才色兼備」という言葉がぴったりな女性といえば、トラウデン直美さんを思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。

13歳で雑誌『CanCam』の史上最年少専属モデルとしてデビューしたトラウデンさんは、現在は現役大学生として政治学や語学を学びながら、モデル活動やテレビ番組のキャスター・コメンテーターとして活躍しています。モデル・タレント活動と学業の合間をぬって一人旅に出かけるほどの旅好きな彼女は、旅先でどのように過ごし、どのようなことを感じ取っているのでしょうか。現在トラウデンさんが強い関心を持たれているという「SDGs」の問題にも触れながら、ざっくばらんに話していただきました。

## 18年住んでももっと深掘りしたくなる、 生まれ育った街・京都の魅力

——トラウデンさんは京都のご出身ということで、京都といえ  
ば人気の観光地ですが、暮らす側としてはどんな街なの  
でしょうか？

すごく「芯」のある街です。観光地としての顔と、伝統的な顔  
があると思うんですけど、うまい具合にどちらも大切にしながら、でも筋は通すというイメージを持っています。

——京都の良さはどんなところだと思いますか？

うーん……全部です！私は地元がすごく大好きで。テレビと  
かでは「京都の人はいけず（いじわる）」って言われたりする  
こともあるんですけど、色んなセルフプロデュースのある面  
白さというか、色んな発見がある街です！私も18年住んでい  
ましたが、多分3～5%も知っているかな？っていうくらい、  
掘れば掘るほど魅力が出てくる場所だなんて思っています。

——オススメの京都の観光スポットってありますか？

京都に来る時って、おそらく河原町とか祇園とか清水とかに  
行っちゃおうと思うんですけど、ちょっと遠くなるけど嵐山や鞍  
馬に行ってみると、またちょっと違った空気の流れが見られ  
ると思います。それ以外にも、本当にお寺とか神社が大量に  
あるので、メジャーどころではない自分のお気に入りのお寺  
を探してみるのも面白いかもしれませんね。プラッと歩けば  
寺に当たるので（笑）。

——プラッと歩けば（笑）。ガイドブックを見ずに歩いてみる  
のも楽しそうですね。

街並みがやっぱり素敵なので、そういうのも楽しいかも。あと  
は大学も結構あるから、学生向けのB級グルメ旅も楽しいと  
思います！京都の食事は湯豆腐とかおぼんざい、懐石料理の  
イメージがあるかもしれないけれど、実はB級グルメもたく  
さんあるんですよ！関西なのでお好み焼きとかたこ焼きとか  
もありますし、ラーメンやパンも有名。スイーツも和菓子系も  
洋菓子系もすごくバリエーション豊富なので、そういう食べ  
物を探しながら旅するのもきっと楽しいはずですよ！

## 旅をする時は、自分を 好きでいられる服を身に纏う

——今はコロナ禍で日常生活でも様々な制限がありますが、  
現役大学生のトラウデンさんの学校生活にも変化はあり  
ましたか？

そうですね、授業はすべてオンラインなので今年はまだ一度  
もキャンパスに行けていないんです。講義型の授業は動画  
で受けて、ゼミや語学の授業はWeb会議システムを使って同  
時配信形式で行っています。ゼミの仲間とは授業以外の時間  
でもWeb会議システムで話したりとかはしているんですけ  
ど、直接会っていないからどういう空気感なのかまだわから  
ないですね。

——学生さんも先生も探り探りっていう感じなんですか？

そうですね。私が通っている大学は、1・2年生と3・4年生  
は違うキャンパスなんです。1・2年生の時は大学生になり  
たてのちょっと浮き足立った雰囲気を感じたので、3・4  
年生のキャンパスのしっかり「勉強」っていう空気を楽しみに  
していたのですが……。

——大変な時代ですね…。トラウデンさんは大学生を送り  
つつ、モデルやテレビのお仕事もされていますが、プ  
ライベートの時間って取れていますか？

運動が結構好きなので、身体を動かすようにしています。あ  
と最近ハマっているのが、プラプラとなんのあてもなく散歩  
するっていう（笑）。1時間とか2時間とか歩いています。家  
にいた時間は掃除ばかりしていますね。特別きれい好きって  
訳じゃないんですけど、掃除すると落ち着くというか、心が休  
まるというか。

——アクティブですね！どちらかというとアウトドア派ですか？

普段はアウトドア派でもインドア派でもあるんです。それこ  
そ自粛期間はずっと家にいろって言われたら苦ではないと思  
います。でも「旅に出よう！」ってなるとそれこそ散歩が好き  
なので、訪れた先でいろいろ見て回ってできることを探した  
いなって思いますね。

——なるほど。ちなみに、トラウデンさんはモデルのお仕事  
をされていますが、旅先のファッションにこだわりはあり  
ますか？

基本的にはラクな格好ですね。それでいて、好きな自分でい  
られる格好というか、一番ナチュラルな自分でいようと思っ  
ています。あまり気取らずジーパンにTシャツとか、さらっと  
1枚のワンピースを着たりとか。靴は絶対に履き慣れた歩き  
やすいものを履きます！そこは譲れません！あと、基本は  
リュックですね。なので全体的にモデルっぽくないと思いま  
す（笑）。旅をする時は一人旅が多いので、自分が写真に写る  
こともあまりなくて……。インスタに上げられるような映えて

る写真がいつもなくて困っちゃうんですけどね……。

## 旅先の歴史的背景を学び 自分の中に取り込みたい

— 旅する時はフラットと行くタイプですか？それとも何か目的を持っていきますか？

私は旅に出たら何かしら学んで帰ってこよう、と思っています。せっかく行くのであれば、楽しむだけでなく「この街が持つ特有の雰囲気はどのような経緯で生まれたんだろう？」とか。少しでも現地で感じ取れたらいいなと思っているので、歴史的なものに触れてみたいですね。ガチガチに勉強していくというよりも、そこの空気感やそこで積み重ねられた歴史の上にある風景みたいなものを感じた上で、歴史もちょっと勉強して、まあ歴史じゃなくても別にいいんですけど(笑)。少しでも旅先の土地への理解を深めて、自分の中に取り込んでから帰ってきたいなって思っています。

— その楽しみ方、すごく面白いですね！これまでに特に印象に残っている場所はどこですか？

訪れた場所はどれも印象に残っていて、「あそこはあんな空気感だったな」とか、「あそこの雰囲気は何色の雰囲気だったな」とか、結構フワとしたイメージで覚えていたりします。あえてピックアップするなら、オランダのアムステルダムはすごく良かったし、あとは広島も私の中で特に思い出に残りますね。

— ちなみにアムステルダムはトラウデンさんにとって何色ですか？

「オレンジ色」ですね。アムステルダムには「何でも良いじゃん！」みたいな、すごく自由な雰囲気があって。父の故郷がオランダの隣のドイツなので、ドイツにはよく行くのですが、隣の国なのに全然雰囲気が違うんです！アムステルダムってNederland(低地)だから土地としては低くはあるんだけど、マインドが一個高い位置にあるなあ、と。全部イメージで覚えているので言葉にするのが難しいんですけど、そういう雰囲気的な「軽さ」が表面にあって、でもやっぱり歴史的な背景にはちょっと深いところにグレーがあるな、というイメージです。伝わりにくいと思うんですけど……(笑)。

— 土地の雰囲気を色で例えるって面白いですね！お父様の故郷がドイツとのことですが、ドイツは何色のイメージですか？

ドイツって私にとって難しくてあまり色に例えられないんですけど、何だろうなあ……強いて言うなら「黄土色」かな？黄色ほど明るく浮き足立っていないというか、そこまでハツラツとしていないですね。それでいて緩さもあって。お堅くいたいのかそうじゃないのかよくわからなくて「どっちなの？」っていう印象です(笑)。田舎に行くと、ケルンから数駅離れた祖父の家の周りの人とかは割と緩いし、なんか田舎のおじいちゃんおばあちゃんたちだなんて感じなんですけど、街中に行くとやっぱりすごい栄えているし、発展している。若者も元気な感じでウェイウェイしてたりして(笑)。実際の雰囲気と国家的なイメージのギャップがある国だなんて。

— なるほど。するとドイツよりはオランダの方が好きですか？

それが、旅行したいなって思うのはオランダかもしれないですが国としてはドイツの方が好きなんですよね、結局(笑)。雰囲気なのかな？

## その土地のことを勉強したり、 何度も足を運ぶと 見えてくることは違ってくる

— 広島も思い出に残っている旅先のひとつとおっしゃっていましたが、いつ頃行かれましたか？

大学1年生の3月頃だったと思います。元々は勉強しにいくつもりで行ったんです。というのも、中学校・高校の時に、どちらも修学旅行の行き先が沖縄で、沖縄戦の平和学習はしたんですけど、広島原爆について学ぶ機会がなくて。自分で学べば良かったんですけど、なかなか実行できていなくて。日本で生まれ育っているのに広島史を知らないままでいたくないなって思ったのがきっかけですね。

その時は一人旅だったのですが、あらかじめ勉強をしてから行きました。広島のことにはなるべくフラットに学びたいと考えていたので、感情移入しすぎないように割と淡々といろいろ見て回りました。「ああ、こういう感じだったんだな」「ああ、もう70年以上前なのか」と思いながら。広島原爆は、私が生まれ育った京都との繋がりもあつたりするんです。元々は京都が爆撃地に選ばれたかもしれないという話を現地の方から聞いたりしましたね。

この時の一人旅ではすべての時間を勉強に費やすんじゃなくて、宮島に行って弥山に登るアクティビティの日も作って、3日間現地に滞在したんですけど、広島には「前に進もう」という力がすごくある街だなと感じましたね。ちゃんと栄えていて、被爆地という過去を背負いながらも前向きなパワーがありました。

— 広島はどのような色のイメージですか？

広島のプロ野球チームと同じになっちゃいますが、「赤」ですね。朱色じゃなくて赤という感じがしました。あとはスーツと何かを達観したような部分もあるなと感じたので、青も。細い青と分厚い赤みたいなイメージがあります。

— やっぱり教科書や文献だけではなく、実際にその土地に行ってみないとわからないことっていっぱいありますよね。

そうですね。何も調べずにただ訪れただけでは得られるものはなかったかもしれません。ある程度インプットした上で行くと、得られるものがまた全然違うと思うんです。そして今度また、もっと勉強して行ったらまた違った色に見えるのかもしれないし、年齢を重ねてまたその土地を訪れるごとに、多分見えてくることも違うと思います。それも旅の楽しさですよ！

## 観光地の表面を消費するだけじゃなく ちょっぴり裏側で見つかる 持続可能な社会へのヒント

— トラウデンさんはSDGs「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」に関心を持っていらっしゃるって、報道番組での取材や雑誌での発信もされていますよね。旅とSDGsって繋がることも多いと思うんですけど、旅先でSDGsについて意識されることはありますか？

そうですね。旅には“観光地を楽しむ”っていう目的はもちろんあるんですけど、危険がない範囲でちょっと裏道に入ってみたり、実際にどういう場所なのかを見るっていうのは、SDGsの課題を知るという観点からするととても大事なことだと思ってますね。やっぱり良い部分っていうのはたくさん宣伝されるから見えるけど、そうじゃない課題になっている部分って、実際にその土地に行ってその土地の言語で調べないと、あまり出てこなくて。でも、その土地の言語なんて全部が全部できる訳じゃないから、自分の眼で見てみて、そのかけらを感じてみる。それこそ日本の問題、抱えている問題って私たちは住んでいるからこそ感じるってたくさんあると思うんですけど、外国の方ってそれは見えづらいじゃないですか？ そういった部分を、できれば現地の方と仲良くなって聞き出せると本当は興味深いことがたくさん出てくると思うんです。それができなくても、ちょっと裏道に入って「おや？」っていうのを見つけてみるとか。ただ、旅行中ずっ



### Profile

## トラウデン 直美

1999年4月21日生まれ、京都府出身。  
「2013 ミス・ティーン・ジャパン」でグランプリを受賞。13歳で『CanCam』の史上最年少専属モデルとしてデビュー。TGCや神戸コレクションなどファッションショーにも多数出演。中学・高校生時代は地元・京都から毎週末のように都内に通ってモデルの仕事をごこなした。大学進学を機に上京し、テレビ出演を本格化。情報、報道、バラエティなど幅広い番組に出演している。また、高校生の頃から社会問題に関心を持ち、2020年4月より報道番組『日経プラス10』での木曜担当コーナーキャスターとしてSDGsの達成に向けて取り組む様々な現場を取材し、情報発信をしている。



ヘアメイク: KIKKU / スタイリスト: 橋内茜 / フォト: 小林潤次(七彩工房)

とそういう目線でいると疲れちゃうんで、「ちょっとその土地の課題を見てみよう」という時間を1時間でも2時間でも設けて旅すると、何かを持って帰ってこられると思います。

—確かに。観光地だけを巡ると、表面的なことしか見えていなくて、結局テレビとかで見聞きしたのと同じ情報しか得られないかもしれませんよね。

それってSDGsの逆だなんて思うんです。その土地の観光をひたすら消費するだけで、持続可能なものではないじゃないですか。

—その土地の課題を見てみようという目線で旅をした時に、「おや?」って思った部分だったりとか、気づきみたいなこととか、何か象徴的な出来事ってありますか?

アムステルダムは軽くて自由な雰囲気を感じたって話したんですけど、実は裏道とか入ると怖いこともあります。それと、私が直接感じた訳じゃないんですけど、戦争した歴史があるので私の(ドイツの)祖父母世代の人がオランダに行くと、いまだにちょっと嫌な顔をされたりするっていうようなことはあるそうです。戦争を経験している世代はやっぱりまだそういう感情があるんだなって。かと思えば、言葉を聞いていると私の父はケルンの出身なんですけど、ドイツ語のケルン弁とオランダ語ってめちゃくちゃ似ているんですね。だから通訳なしでもお互いの言葉を喋っているだけで8割は通じる、なんてこともあるんです。そういった些細なこといろいろな気づきがありますね。

## 一つひとつの物事を丁寧に 見つめることが、SDGs実現の第一歩

—トラウデンさんがSDGsに興味を持ったきっかけはどのようなことですか？

きっかけは高校の時の授業です。通っていた高校がSGH（スーパーグローバルハイスクール）に指定されている学校だったんですけど、そこで私たちが取り組んだテーマが「環境」だったんです。研修の一環でドイツ・オーストリアを訪れてバイオマス発電や風力発電を見学したり、いろいろなゲストの方をお招きしてお話を聞かせていただいたりする中で、やっぱり未来を生きていく私たちの世代って環境問題をはじめとしたSDGsのその他いろいろな目標ってというのは、当たり前に取り組んでいかなくてはいけないことで、必要な価値観だになっていうのを感じたのがきっかけです。

—今まで訪れた中で、とりわけしっかりとSDGsを推進しているなっていう印象が強い国はありますか？

挙げるのは難しいですね。例えばドイツは政府が具体的な環境目標をしっかりと設定していますよね。私も研修旅行で先進的な取り組みを見て環境先進国だなと思ったんです。でも、実際の街中を観察してみるとペットボトル飲料が当たり前前に飲まれていて、実は日本の方がよっぽどリサイクル率が高かったりするんですよ。

—なるほど。それも現地に行ったからこそ気付けたことですね！サステナブルな世の中に近づくために大切にされていることはありますか？

急がないで一つひとつを丁寧にしていくことが本当に一番サステナブルに近づける道だなんて思うんです。例えば身の回りのもの、服を買うにしてもスーパーでお野菜を買うにしても、その状態だけを見ないで、その裏にどんなものが、どのように作られて、どこからそこに運ばれる過程で、どんなトラックに載ってきたかとか、考えを巡らせるだけでも全然違うと思うんですよ。そこに倫理的にちょっとおかしいなっていう部分がある時に、ちょっと「んっ？」って思う部分って誰でもあると思うんです。でも知らなかったらなんとも思わずにただ消費するだけになるので、一つひとつのことを丁寧にしていく、見ていく、過さず、っていうのがやっぱりサステナブルというか、エシカル（倫理的）な社会に近づく一歩なのかなと感じます。

## 「足るを知る」という感覚を これからも大切にしたい

—モデルとして活動されているトラウデンさんにとっても縁が深いファッション業界も、近年はエシカルファッション（生産に関わるすべての人と地球環境に配慮したファッションのこと）への関心が高まっていますよね。

エシカルファッションは、私自身とても葛藤の多い領域です。いくらエシカルを謳った洋服を買っても、それを2～3回しか着ないっていうのはエシカルじゃないですよ。それに、素材に関しても、今はポリエステルとか化学繊維よりもコットンの方が良いって言われることもありますが、コットンを作る過程、綿花の栽培には大量の水が必要だったり、安い賃金で働かされる子供がいたり、コットンだから環境に良いっていう訳でもない。むしろコットンの方が環境に悪かったりもするので、今すごくホットな話題というか、盛り上がりを見せています。

個人的には、エシカルファッション、サステナブルなファッションを実現するには、“ひたすら消費し続けるだけで良いのか”っていう根本に立ち返って、丁寧に服を選んで着るっていう、ちょっと一歩立ち止まって考える必要があるかなと考えています。ただ、今は“服を見せて、買ってもらおう”というお仕事をしているので、すごく私自身の中で葛藤はありますね。難しい……。

高校生の時にフードバンク活動\*をしていて、そこで出会った方から「足るを知る」という言葉を学んだんです。自分がいかに恵まれているかというか、自分の身の回りにあるもので自分の生活が成り立っているということに「足りているな」って感覚、「満足できるな」っていう感覚。それはすごく幸せなことですし、とても大事なことだなんて思うんです。今の世の中のあり方だとどうしても消費をしなければいけない構造になっていますが、自分の幸せのためにも、「足りているな」っていう感覚、「今、私はすごく幸せだな」って思える感覚を大事にして生きていきたいな、と日々思っています。

\*フードバンク活動…食品企業の製造工程で発生する包装の破損や過剰在庫、印字ミスといった規格外の食品ロスを引き取り、福祉施設や生活困窮者の支援団体等へ無料で届ける活動



## つづきをダウンロード(無料)



Hostelling Magazine vol.23  
まとめてダウンロード



教えて! 旅GIRL ..... P17



インタビュー ..... P02  
トラウデン 直美  
ファッションも旅も、  
急がないことでサステイナブルに近づける



松島むうの晴れときどき旅びより..... P18



Youth Hostel Pick up ..... P08  
本州最西端の海峡都市、  
下関の歴史、文化、食。  
すべてを堪能できる海峡の宿-。  
海峡の風 下関市火の山ユースホステル



Sustainable Tourism ..... P20



Hostelling Magazine × 地球の歩き方... P12  
まるで映画の世界に飛び込んだみたい!  
世界のリアルSF、近未来都市  
■奇抜なビルが点在する世界に名だたる近未来都市  
■近代建築と中世の町並み ふたつの顔をもつ独特の景観  
■天才建築家が設計したゼロから生まれた未来都市  
■1年に1度開催される世界遺産を舞台にした光のショー  
■ハドソン・リバー沿いにたたく松ぼっくりみたい不思議な建物



Youth Hostel MAP ..... P22